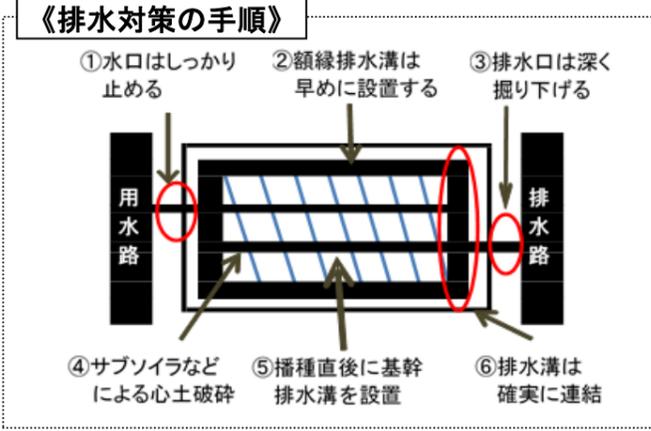


排水対策、土づくり、適期播種など基本技術を徹底し、収量・品質の向上を目指しましょう！

1 排水対策

- 用水路や隣接ほ場からの漏水をしっかりと防止しましょう。
- 額縁排水溝の設置や心土破碎を実施し、ほ場の乾きを促しましょう。
(額縁排水溝は、幅 30cm、深さ 20cm 以上を目安に設置)
- 表面排水を促すため、播種直後に基幹排水溝を設置し、排水溝や深く掘り下げた排水口と必ず連結しましょう。
- 播種後も排水溝の点検・手直しをするなど、ほ場に水がたまらないようにしましょう。

排水が不十分だと、酸素不足になり発芽不良となる。



2 土づくり

- 耕起前に必ず苦土石灰を 100~200kg/10a 施用し、pH 6.0~6.5 を確保しましょう。
- 地力向上のため、堆肥等の有機物を積極的に施用しましょう (表1)。

表1 堆肥の施用量目安

種類	施用量 (/10a)
牛ふん堆肥	1~2 t
豚ふん堆肥	0.5~1 t
発酵鶏糞	100~200kg

3 病害虫防除

種子伝染性病害やフタスジヒメハムシ等の初期害虫の発生を防止するため、必ず種子消毒を行いましょ。

薬剤名	処理法	対象病害虫	使用上の注意
クルーザー MAXX	種子5kg 当たり 40 ml塗沫 (乾燥種子1kg当たり原液8mlを塗沫)	アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、茎疫病、紫斑病、苗立枯病、リゾクニア根腐病、黒根腐病	塗沫後、種子を十分に乾かす

4 播種作業

※特に地力の高いほ場などで、青立ちが懸念される場合は6月上旬の播種を！

- 極端に早い播種を避けるなど、適期播種を徹底しましょう。
- 土壤が乾いた状態でトラクターの速度を低速にし、できるだけ細かく砕土しましょう。
- 耕起、砕土・整地、播種、作溝、除草剤散布までの一連の作業は、天気の良い日に1日で行いましょう。
- 播種時期に応じた播種量を準備し、目標栽植本数を確保できるよう播種機の目皿やスプロケットを調整しましょう (表2)。
- 播種深度は 3 cm程度 を目安とし、種子が露出しないようにしましょう。また、欠株を出さないよう、ゆっくり歩く程度の速さ(0.5m/秒)で播種作業を行いましょ。
- 土壤条件や栽培に基づき、適正な基肥量を施用しましょう (表3)。
- 除草剤の効果を上げるため、砕土率を高め、播種直後に規定量を均一に散布しましょう (表4)。
また、農薬のラベルに記載された使用量、収穫前日数等の農薬使用基準を遵守しましょ。



スプロケットの位置



表2 品種別、播種時期別の播種量等の目安 (条間 80 cm、播種精度 95%、苗立率 90%)

品種	播種時期	目標栽植本数 (本/10a)	播種量 (kg/10a)	目皿式播種機		ロール式播種機		播種粒数 (粒/m)		
				目皿	スプロケット	ロール	スプロケット			
えんれいのそら	5月25日~6月上旬	14,000~16,000	5.5~6.3	B-2	10~11	13	白色	10	14	12~14
				B-22	14	9~10	黒色	11	13	
	6月中旬	16,000~18,000	6.3~7.1	B-2	9~10	14	白色	9	15	14~17
				B-22	13	10	黒色	10	14	
シュウレイ	5月25日~6月上旬	12,000~15,000	5.3~6.6	B-3	10~11	11	白色	11	13	11~13
					11	13	黒色	12	12	
	6月中旬	15,000~18,000	6.6~7.9	10	13~14	白色	10	14	13~17	
				9	14	黒色	11	13		
オオツル	6月上旬	10,000~12,000	4.5~5.4	B-3	13	11	白色	12	12	9~11
					11	10~11	黒色	13	11	
	6月中旬	12,000~14,000	5.4~6.3	10	11	白色	11	13	11~12	
11	13	黒色	12	12						

※ 播種量は、大粒種子(百粒重:えんれいのそら 35.6g、シュウレイ 39.4g、オオツル 40.2g)で計算。
※ ロール式播種機のロールの溝(穴)数は、白色が8ヶ、黒色が10ヶです。

表3 基肥施用量の目安 (kg/10a)

土壤条件	N成分	(例)BB084 施用量
砂壤土~壤土	3~4	30~40
埴壤土	2~3	20~30

注: 麦跡の場合はN成分をそれぞれ2kg 多くしましょ。

表4 除草剤(土壌処理剤)散布量の目安

除草剤名	散布量 (/10a)
トレファノサイド粒剤 2.5	4~6kg
ラクサー粒剤*	4~8kg
ラクサー乳剤*	400~800ml(水 100ℓで希釈)
プロールプラス乳剤*	400~600ml(水 70~150ℓで希釈)

* 散布直後の多量の降雨により薬害を生じる恐れがあるので、天候を見極めて散布しましょ。